



# 地域での 支え合い 活動事例集

～地域から孤立をなくすために～



社会福祉法人 岐阜県社会福祉協議会

\*この冊子は赤い羽根共同募金の配分を使用して作成しています。

## はじめに

- いま、人口減少時代の到来、子どもの減少、高齢者及びひとり暮らし世帯の増加、住民相互のつながりの稀薄化など地域をとりまく状況は著しく変化しており、また、貧困、自殺、虐待、いじめ、子ども（へ）の犯罪など様々な問題がおこっています。
- これらの問題解決を図るためには、公的制度・サービスの充実はもちろんですが、同じ地域で暮らす住民として、何らかの支援が必要な人を地域社会から排除（疎外）するのではなく包み込み、支え合いによって、地域から孤立しないような取り組みが重要となります。
- 問題の早期発見・対応、きめ細やかな助け合いなど、地域住民による主体的な取り組みは、行政がすべきことを補うものではなく、行政ができないことを行うものであり、地域社会との関係を維持・拡大する「新たなつながりづくり」です。
- そして、様々な機関・団体、専門職がそれぞれの「強み」を活かし、または協働することによって、誰もが活躍できる「場」（地域）づくりに取り組むことが求められています。

### 施策づくりのためのネットワーク

企業

行政

社会福祉施設

相談機関

民生委員児童委員協議会

医師会

福祉サービス事業者

専門職組織

### 利用者の生活を支えるネットワーク

教師

弁護士

看護師

医師

保健師

福祉サービス従事者

NPO 法人・ボランティア団体

### 見守り・助け合いのネットワーク

民生委員・児童委員

自治会

福祉委員

当事者（家族）団体

子ども会（育成会）

児童・生徒

（近隣）ボランティア

老人クラブ

友愛訪問員

対象者が希望する人

生活関連業者

〈新聞、牛乳、宅配、電気、ガス、水道、スーパー、子ども110番…〉

# 芥見東三世代交流センター 『みどりっこハウス』

岐阜市社会福祉協議会芥見東支部

## 活動の経緯・立ち上げ

自治組織等と連携しながら、地域の見守り活動や、高齢者を対象とした簡単な困りごとを代行するボランティア「小さな手助け」の活動などに取り組んできたが、拠点となる事務局は公民館の一部であり、活動にも限界があった。このような中、空き家を提供頂けることとなり、地域住民が交流を深める場所として、平成 28 年 12 月 18 日に「みどりっこハウス」を開設した。

## 活動の内容

『みどりっこハウス』は毎週水曜日・土曜日に開館し、『みどりっこカフェ』や『子ども未来塾』を実施。

### 『みどりっこカフェ』

■開 催：毎週水曜日・土曜日 10 時～15 時

■協力費：100 円(コーヒー代)

■参加者：地域の高齢者

■内 容：コーヒーを飲み、  
お菓子を食べながらの交流

### 『子ども未来塾』

■開 催：毎週土曜日 10 時～12 時、  
13 時～15 時

■協力費：50 円(ジュース代)

■参加者：地域の小中学生 など

■内 容：宿題、自主勉強、音読など、したいことを行う。

■協力者：地域住民(教員 OB 等)、大学生



## 今後の活動に向けて

- 地域の活性化に向け一緒に行動できる人材  
“若者サポーター”の育成。
- 長く住んでいただける町をめざし“婚活事業”の実施。



# 心に病を抱える方が過ごす『すこやかクラブ』

瑞穂市社会福祉協議会・せせらぎの会

## 活動の経緯・立ち上げ

瑞穂市社協では、心の病を持った方、心が疲れているなど感じている方が気軽に来て、ゆったりと過ごしていただく場所が必要と考え、「精神保健福祉ボランティア養成講座」によりボランティア養成を行った。この講座を受講した方々が、「精神保健福祉ボランティア せせらぎの会」を結成し、精神障がいの方が利用する施設や病院等を見学・支援の方法などを学んだ後、市、社会福祉法人施設、岐阜保健所などの協力により、平成18年に「すこやかクラブ」を開始した。「せせらぎの会」は担い手として活動している。

## 活動の内容

- 開 催：毎月第2水曜日 10時～15時、  
第4水曜日 10時～13時  
※祝祭日の場合は、翌週の水曜日
- 場 所：瑞穂市老人福祉センター
- 費 用：300円(昼食代) ※第4水曜日は無料
- 参加者：心の病を持った方、心が疲れているなど  
感じている方  
※市内外を問わない  
※主治医の意見書が必要
- 内 容：[第2水曜日]料理づくり(プログラム有)  
[第4水曜日]カラオケやゲームなど自由に過ごす。  
お弁当持参  
お茶を飲み、お菓子を食べながらの  
おしゃべり、悩みごと相談 など



## 今後の活動に向けて

- 当初は、お互いのコミュニケーションを取ることができず、静かで緊張感が漂っていたが、今は、とても賑やかで和やかな感じで開催できているため継続に努める。
- 運営に関わるメンバー間で、病気(精神障がい)の理解に向けた学習会の実施や意見交換などに努める。



# “ちょっとした困りごと”をお手伝いする 『ちょっとサポート』

表佐地区ささえあい連絡会(垂井町)

## 活動の経緯・立ち上げ

垂井町社協では、小学校区単位で「ささえあい連絡会」の組織化に取り組み、表佐地区では、平成20年に設立。これまでマップづくりやサロン活動、見守り活動等を行ってきた。

平成27年度に県社協・垂井町社協との共催で「ちょっとサポート講座」を開催し、受講された方の中からサポーター登録をいただき、ちょっとサポート活動を始めた。

## 活動の内容

■定例会の開催：2か月に1回  
(サポーター相互の情報交換、意見交換 等)

■コーディネーターの役割： \*コーディネーター4名  
・困りごとの依頼が入ったら、(1人3か月交代の輪番制)

- ①依頼者のお宅を訪問し、
- ②依頼内容の確認、
- ③どのサポーターに活動してもらうか決め、
- ④サポーターへ依頼する。

・サポーター活動後、報告を受ける。

■サポーターの役割： \*登録サポーター26名(H28.11 未現在)  
・原則2名以上で活動を行い、1時間程度の活動とする。  
・本人ができることは、一緒に活動していただくことを大切にしている。

■利用料：活動は無償(実費がかかる場合は依頼者の負担)

■対象者：表佐地区の住民



## 今後の活動に向けて

- 活動をはじめても、なかなか依頼が少なく、回覧板によるチラシの回覧やポスターの掲示、独居高齢者宅などへのサポーター名刺の配布、サポーターによる各自治会総会での活動説明など広報に取り組んでいる。
- 困りごとを抱えた方が、“ちょっと助けて”と気軽に声を出せる地域にするために、まずは“顔の見える関係づくり”に取り組みたい。

# 認知症の方とその家族が集う 『ぬくもりカフェ』

関介護者の会ぬくもり(関市)

## 活動の経緯・立ち上げ

関市社協が実施している「介護者のつどい」の参加者が中心となり、介護者が日常的に“ほっと”話せる場をつくることを目的として、介護経験者や専門職の支援を得て平成 25 年 7 月に「関介護者の会ぬくもり」が発足した。その後、会員以外の介護者や認知症高齢者等も気軽に参加できる場所として、「ぬくもりカフェ」を平成 27 年 3 月に開設した。

## 活動の内容

■開 催：毎月第 4 土曜日 9 時 30 分～ 12 時

■場 所：関市中央第 1 地域包括支援センター  
(民家利用)

■参加者(平均)：介護者 8 人、認知症高齢者 7 人、  
福祉専門職 2 人、  
傾聴ボランティア 3 人

### ■内 容：

- ・ コーヒーを飲みながらの交流 (2 か月に 1 回、  
コーヒーチェーン店による無料提供あり)
- ・ 専門職による相談
- ・ ハンドベルやギターの演奏と合唱
- ・ 年 1 回、大規模商業施設にて出張カフェを行い、市内の認知症高齢者・介護者と児童・生徒 (関市社協主催ボランティアスクール参加者) との交流



## 今後の活動に向けて

- 医療分野の専門家 (医師、理学療法士など) の協力を得て、相談支援を充実する。
- 会員や支援者を増やし、認知症カフェを増設する。



## 『学習支援教室・みのかも子ども食堂』

美濃加茂市社会福祉協議会

## 活動の経緯・立ち上げ

母子寡婦福祉会から、ひとり親家庭への学習支援の要望が出されていたことを受け、平成 27 年度に「夏休み宿題応援教室」として期間限定で開催。予想以上に希望者が多く、また、教員 OB との協力体制や市内小・中学校から事業への理解が得られたため、平成 28 年 1 月より本格始動した。



## 活動の内容

## 【学習支援教室】

■開 催：毎週金曜日 17 時～ 19 時 30 分

■参加者：小中学生（準要保護家庭に案内を送付）、  
学習ボランティア（教員 OB、市民、大学生）

## ■内 容：

- ・自分で持ってきた宿題や教室で用意したプリントなどを各自のペースで取り組む。
- ・時間内であれば出入り自由。原則保護者の送迎。
- ・学習後は、おやつを食べたりボランティアとの交流など自由に過ごす。



## 【みのかも子ども食堂】

■開 催：月 1 回（学習支援教室開催日に合わせて開催）

■参加者：学習支援教室参加の小中学生とその保護者及び学習支援教室のボランティア、市民等。調理は、地域ボランティア。

## ■内 容：

- ・学習支援教室とは別の建物で、ボランティアによる夕食作り（地元の農家や企業から寄付いただいた食材＜お米・野菜等＞を活用）
- ・参加費 一人 300 円（大人）、200 円（子ども）
- ・学習を終えた子どもたちと迎えに来た保護者、学習支援に関わるボランティア等も一緒に食卓を囲む。



## 今後の活動に向けて

- （特に、中学生の子どもたちに対しては、）学力向上のための個別サポートの充実。
- （特に、小学生の子どもたちに対しては、）ボランティアとの交流の場・居場所となれるような関わりを大切にしていく。
- 子ども食堂を、より身近な地域で開催されるよう、ボランティアや開設箇所を増やしていきたい。

# 市町村社協が実施する地域の支え合い活動の状況

単位:社協数等(平成28年11月1日現在)

## 連合自治会の範囲 【小学校区】

行政  
(担当・専門職)

企業

福祉サービス事業者

生活関連業者  
新聞、牛乳、スーパー

- 地区社協等推進組織  
【19社協、234団体】
- 地区福祉懇談会【25】
- 地区地域福祉活動計画【9】
- 障がい者サロン【12社協、21箇所】
- 子育てサロン【19社協、145箇所】
- 配食サービス【37】
- 助け合い活動【14】
- 宅幼老所【1】
- 送迎サービス【17】
- 【買い物支援】
- 【地区なんでも相談】
- 【地区ボランティアセンター】
- 【地域指定による福祉学習】

## 自治会・町内会の範囲

- 福祉委員の設置【37社協、8,315人】
- 見守りネットワーク活動【30】
- 要支援者マップ【24】
- 高齢者サロン(複合型含む)  
【42社協、2,262箇所】

## 近隣

～向こう三軒両隣～

- ✳ 声かけ、話相手
- ✳ ゴミ出し、電球の取り替え
- ✳ 問題の発見・連絡

社会福祉法人岐阜県社会福祉協議会

〒500-8385 岐阜市下奈良2-2-1 岐阜県福祉・農業会館内

TEL:058-273-1111 (代表) FAX:058-275-4858

